

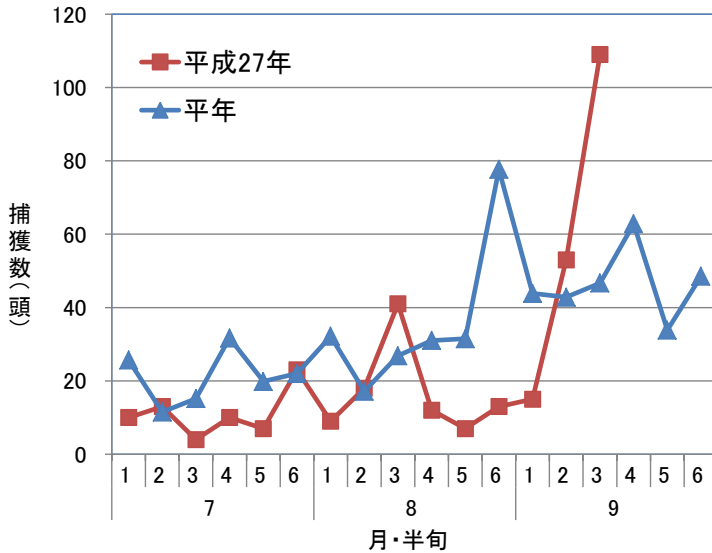
ハスモンヨトウの多発生に注意!!

ハスモンヨトウは西南暖地から飛来する害虫で、幼虫が多種類の作物を集団で加害し、大きな被害をもたらします。フェロモントラップにおける成虫捕獲数は、9月3半旬から急激に増加しています。今後幼虫による被害が多発する恐れがありますので、防除を徹底しましょう。

1. 発生状況

農業試験場のフェロモントラップにおける成虫捕獲数は、9月3半旬から急激に増加しており、平年を大きく超えています。

このことから、幼虫による加害は9月下旬から多くなると予想されます。



ハスモンヨトウ成虫 (上) と幼虫 (下)

フェロモントラップにおける捕獲状況
(平成27年9月15日時点)

<http://www.pref.fukui.jp/doc/noushi/kankyo/hasumon.html>

2. 防除対策

- 注意が必要な作物：サトイモ、ダイズ、キャベツ、ブロッコリー
- 圃場をよく見て回り、卵塊や若齢幼虫の群生を見つけたら、葉ごと取り除き捕殺する。
- 中齢～老齢幼虫になると薬剤が効きにくくなるため、若齢幼虫のうちに防除する。
- 育苗期や定植直後は被害が大きくなるため発生初期の防除に努める。
- 対象作物によって登録薬剤が異なるため、薬剤の選定にあたっては平成27年度農作物病害虫防除指針を参照する。

☆最新の農薬登録情報 (<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllg301.do>) を確認して下さい